

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

**Select All**  
 **Clear Selections**

**Print/Save Selected****Send Results**

**Format**  
 **Display Selected**  **Free**

1.  3/5/1

009717217

WPI Acc No: 1993-410770/199351

XRAM Acc No: C93-183059

Hair-drying agent compsn., having high dyeing effect without  
 unpleasant odour - contains acidic dye, butanediol, and e.g.  
 cis-3-hexenol and tert-butyl cyclohexyl acetate

Patent Assignee: KAO CORP (KAOS )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 5310543	A	19931122	JP 92115102	A	19920508	199351 B

Priority Applications (No Type Date): JP 92115102 A 19920508

Patent Details:

Patent No	Kind	Lat Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 5310543	A	5	A61K-007/13	

Abstract (Basic): JP 5310543 A

The compsn. contains (A) 0.01-5 wt.% of an acidic dye(s), (B) 0.1-50 wt.% of 1,3-butanediol and (C) 0.001-3 wt.% of at least two cpds. of (C-1) garbanum, cis-3-hexenol, cis-3-hexenyl acetate and cis-3-hexenyl salicylate, (C-2) tert-butyl cyclohexyl acetate, ethyl 2-cyclohexyl propionate and ethyl tricyclodecane-2-carboxylate and (C-3) pearlide, tentarome, pentalide, musk ketone and amber core and has a pH of 2.0-4.5.

USE - The compsn. has high dyeing effect without unpleasant odour and high time-lapse stability.

Dwg. 0/0

Title Terms: HAIR; DRY; AGENT; COMPOSITION; HIGH; DYE; EFFECT; UNPLEASANT; ODOUR; CONTAIN; ACIDIC; DYE; BUTANE; DI; OL; CIS; HEXENOL; TERT; BUTYL; CYCLOHEXYL; ACETATE

Derwent Class: D21; E19

International Patent Class (Main): A61K-007/13

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

**Select All**  
 **Clear Selections**

**Print/Save Selected****Send Results**

**Format**  
 **Display Selected**  **Free**

© 2002 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-310543

(43) 公開日 平成5年(1993)11月22日

(51) Int. Cl. 5

A61K 7/13

識別記号

8615-4C

F I

(B) 20201020278



審査請求 未請求 請求項の数1 (全5頁)

(21) 出願番号 特願平4-115102

(22) 出願日 平成4年(1992)5月8日

(71) 出願人 000000918  
花王株式会社  
東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 太島 佐知子  
千葉県千葉市美浜区高浜4-10-25-108

(72) 発明者 平山 良一  
千葉県我孫子市つくし野4-6-1-502

(72) 発明者 板屋 寿人  
東京都日野市多摩平2-5-1 81-407

(74) 代理人 弁理士 有賀 三幸 (外2名)

## (54) 【発明の名称】染毛剤組成物

## (57) 【要約】

【効果】 次の成分(A)、(B)及び(C)を含有

(A) 酸性染料

(B) 1, 3-ブタンジオール

(C) 下記の3群のうちの2以上の群から選ばれる2種以上の化合物

し、pHが2.0~4.5であることを特徴とする染毛剤組成物。

0.01~5重量%、

0.1~50重量%、

0.001~3重量%、

トリシクロデカン-2-カルボキシレート

3群: パールライド、テンタローム、ペントライド、ムスクケトン、アンバーコア

【効果】 この染毛剤組成物は優れた染毛効果を有し、不快な臭いがなく、かつ経時安定性も良好である。

1群: ガルバナム、シス-3-ヘキセノール、シス-3-ヘキセニルアセテート、シス-3-ヘキセニルサリ

シレート

2群: tert-ブチルシクロヘキシルアセテート、エチルエチル2-シクロヘキシルプロピオネート、エチル



袋やコーム等の道具を使用して毛髪に塗布し、一定時間放置又は加温することにより染毛する場合には、0.2～5%配合するのが好ましい。

【0008】(B)成分である1,3-ブタンジオールの配合量は、0.1～50%、特に1～35%が好ましい。0.1%未満では充分な染毛効果が得られず、50%を超えて配合しても、効果の向上は認められない。

【0009】本発明の(C)成分のうち、1群はガルバナム、シス-3-ヘキセノール、シス-3-ヘキセニルアセテート、及びシス-3-ヘキセニルサリシレートから選ばれる分岐アルコール誘導体であり；2群はtert-ブチルシクロヘキシリアルアセテート、エチル2-シクロヘキシルプロピオネート、及びエチルトリシクロデカン-2-カルボキシレートから選ばれるシクロアルカンカルボン酸誘導体であり；3群はパールライド〔1,3,4,6,7,8-ヘキサハイドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロペンタ-2-ベンゾピラン〕、テンタローム〔7-アセチル-1,1,3,4,4,6-ヘキサメチルテトラヒドロナフタレン〕、ベンタライド〔シクロペンタデカノライド〕、ムスクケトン〔2,6-ジニトロ-3,5-ジメチル-4-アセチル-tert-ブチルベンゼン〕、及びアンバーコア〔1-〔2-tert-ブチルシクロヘキシルオキシ〕-2-ブタノール〕から選ばれるムスク、アンバー香を有する香料である。本発明における(C)成分は、前記の3群のうちの2以上の群から2種以上の化合物を選択して配合される。すなわち、2種の化合物を配合する場合には、1群と2群、2群と3群、又は1

$$\text{緩衝能} = \left| \frac{d C_B}{d \text{pH}} \right|$$

〔式中、C<sub>B</sub>は塩基のイオン濃度(グラム当量/l)を示す〕

【0014】当該緩衝能が0.01グラム当量/l未満であると短い放置時間で充分な染毛効果が得られず、0.2グラム当量/lを超えて、染毛効果の目立った向上は見られず、緩衝能を付与するpH緩衝剤やその他の配合成分が溶解しにくくなる等の理由から好ましくない。なお、好ましい緩衝能は0.01～0.05グラム当量/lである。

【0015】このような緩衝能は、染毛剤組成物にpH緩衝剤、界面活性剤、キレート剤、染料、防腐剤等を添加することによって付与することができる。このうち、pH緩衝剤としては、pH 2.0～4.5の範囲で緩衝作用を有する有機酸又は無機酸及び/又はその塩を用いることができる。有機酸としては、例えばクエン酸、グリコール酸、コハク酸、酒石酸、乳酸、フマル酸、リンゴ酸、レブリン酸、酪酸、吉草酸、シュウ酸、マレイン酸、フマル酸、マンデル酸等を挙げることができ、無機酸とし

20

40

50

群と3群からそれぞれ1種ずつを選択して配合すればよい。また、3種以上の化合物を配合してもよい。好ましい組み合せは、1群、2群及び3群からそれぞれ1種以上を選択して配合することであり、その例としては例えばシス-3-ヘキセノール、tert-ブチルシクロヘキシリアルアセテート及びペントライドの組み合せ等が挙げられる。

【0010】(C)成分の本発明染毛剤組成物への配合量は、1～3群の合計量で0.001～3%であり、好ましくは0.2～1%である。0.001%未満では安定化効果及び不快臭消失効果が充分でなく、3%を超えると(C)成分に起因する香りが強くなり、実使用に適さなくなる。

【0011】本発明染毛剤組成物のpH(10%水溶液として測定)は2.0～4.5であり、より好ましくは2.5～4.5、特に好ましくは2.5～4.0である。pHが4.5を超えると染毛剤を毛髪に塗布した後の放置時間が長くなるため好ましくなく、pHが2.0未満であると酸成分による手肌への刺激が問題となる。

【0012】また、本発明染毛剤組成物は、本組成物の10%水溶液の緩衝能が0.01～0.2グラム当量/lを示すようにすると、塗布後の放置時間が短縮される。ここで、本発明における緩衝能とは、25℃における染毛剤組成物の1.0%水溶液のpHを初期の値から1上昇させるのに要する塩基の濃度を尺度として次式により求められる値である。

【0013】

【数1】

ては、例えばリン酸、硫酸、硝酸等を挙げることができる。また、これらの酸の塩としては、例えばナトリウム塩、カリウム塩、アンモニウム塩、トリエタノールアミン塩などのアルカノールアミン塩等を挙げることができる。緩衝能を与える化合物の配合量は特に規定されるものではなく、緩衝能を与える化合物の種類によって異なる。例えば、主に緩衝能を与える化合物として、クエン酸ナトリウム塩を用いた場合は、約2～2.5%以上の濃度で配合される。

【0016】また、本発明の染毛剤組成物には、本発明の効果を損なわない範囲で各種界面活性剤、カチオン性重合体、油性成分、ヒドロキシリルセルロースやキサンタンガム等の増粘剤、シリコーン誘導体、香料、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、殺菌剤等を配合してもよい。ここで界面活性剤としてはオレフィンスルホ酸、アルカンスルホ酸、脂肪酸アルキルエーテルカル



(組成)	(重量部)
レモンオイル	525
ライムオイル	150
ジャスミンアブソリュート	15
エディオン <sup>1</sup>	75
グレープフルーツオイル	15
オレンジバレンシア	150
ベルガモットオイル	45
ジエチルフタレート	25
合計	1000

【0025】\*2: フィルメニヒ社製

【0026】得られた染毛剤をヘアリンスと同様の使用方法により使用したところ、数回の使用で白髪が目立たなくなり、染色性が良好であった。また、これらの染毛剤を40℃、80%RHの恒温室に1ヶ月間保存したところ、着香用組成物1を配合した本発明染毛剤は変化を

認めなかったが、着香用組成物2を配合した比較染毛剤は酸臭が発生し、実使用には適さなかった。

【0027】実施例2

下記組成の染毛剤組成物(pH4.0)を調製した。

【0028】

【表4】

(組成)	(重量%)
(1) 酸性染料	
黒色401号	0.006
紫色401号	0.003
橙色205号	0.035
赤色106号	0.004
(2) 1,3-ブタンジオール	20
(3) シス-3-ヘキセニルサリシレート(1群)	0.003
(4) <i>tert</i> -ブチル シクロヘキシルアセテート(2群)	0.002
(5) ムスクケトン(3群)	0.02
(6) ペンタライド(3群)	0.01
(7) N-メチルピロリドン	10
(8) キサンタンガム	1
(9) 水酸化ナトリウム	適量
(10) 精製水	バランス
合計	100